

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 5年次生 秋葉 健太

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受けて 2月 26日から 3月 10日の間、オーストラリアのキングスクリフにある TAFE North Coast Institute Kingscliff Campus にて語学研修、文化交流、薬局での臨床研修を行った。志望した理由としては、日本とオーストラリアの薬剤師・医療現場の違いを知ることにより、それらを比較して海外から見た日本の医療の良い点・問題点を学び、これからの日本の薬剤師の革新に少しでも貢献していきたいと考えたからである。



写真1. TAFE 構内



写真2. カバリータビーチ

2. 研修について

カリキュラムとして、午前是一般英語の授業があり、午後からは薬学に関する授業があった。それ以外に、他国生徒との交流、TAFE のオーストラリアの先住民族であるアボリジニの文化体験、近郊にある薬局での研修を行った。中でも薬学クラスの授業ではオーストラリアの医薬品・医療制度について、薬剤師の業務内容、人々のセルフメディケーションについての考え方について講義を受けた。

最も印象に残ったものは、両国の薬剤師の存在感の違いであった。オーストラリア人

にとって病気にかかったらまず向かうのは病院ではなく、ドラッグストアである。ここが日本とは大きく違う。ではなぜ薬局に行くのか。

その背景にはオーストラリアの医療制度がある。日本は国民皆保険制度が原則であり、自己負担医療費がそこまで高くない。一方オーストラリアも Medicare という国民皆保険が存在し、公立の病院ならば無償でかかることができるが、常に予約が殺到し医療を受けるのに時間がかかる。つまり、病院の敷居が日本に比べて断然高いのである。そして、患者さんは、病院を受診せずに済むようドラッグストアで購入した薬で病気を治そうとする。するとセルフメディケーションの意識が付き、薬剤師も頼られる存在となり、社会的地位も向上する。そのため、オーストラリアの薬剤師はカウンセリング・サプリメントの知識が豊富でありさらに薬局の役割も幅広いものとなっていた。例えば、リフィル処方箋、テクニシャン制度、予防接種、バイタルサインチェック、患者との相談個別室を設けるなど、日本が参考とすべきサービスが多くあった。



写真3. 薬局風景

3. 最後に

今回の研修で改めて薬剤師に求められているもの、役割について実感し、日本の薬剤師の新たな可能性、活躍の場があるのではないかと感じた。私は今回身をもって学んだこの経験を、友人、後輩へと伝えて将来の薬剤師のさらなる活躍、展望に貢献していきたい。



写真4. 送別会